

商品名 ペントシリン注射用1g 医薬品基本情報

薬効	6131 ペニシリン系抗生物質製剤	一般名	ピペラシリンナトリウム注射用
英名	Pentacillin	剤型	注射用
薬価	329.00	規格	1g 1瓶
メーカー	富士フィルム富山化学	毒劇区分	

ペントシリン注射用1gの効能・効果

急性気管支炎、膿胸、肺炎、敗血症、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、化膿性髄膜炎、子宮内感染、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎、腎盂腎炎、胆管炎、胆嚢炎、バルトリン腺炎、膀胱炎

ペントシリン注射用1gの使用制限等

1. 本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴、伝染性単核球症	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	禁止
2. 高度腎障害	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	慎重投与
3. 類薬で過敏症の既往歴、アレルギーの家族歴、気管支喘息の家族歴、蕁麻疹の家族歴、発疹の家族歴、アレルギーを起し易い体質、気管支喘息を起し易い体質、蕁麻疹を起し易い体質、発疹を起し易い体質、経口摂取の不良、全身状態の悪い、非経口栄養、出血素因、肝機能障害、嚢胞性線維症	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	注意

ペントシリン注射用1gの副作用等

1. 中毒性表皮壊死融解症、Toxic Epidermal Necrolysis、TEN、皮膚粘膜眼症候群、Stevens-Johnson症候群、急性汎発性発疹性膿疱症、急性腎障害、間質性腎炎、重篤な腎障害、汎血球減少症、溶血性貧血、偽膜性大腸炎、血便、重篤な大腸炎、腹痛、頻回の下痢、発熱、咳嗽、呼吸困難、胸部X線異常、好酸球増多、間質性肺炎、PIE症候群、筋肉痛、脱力感、CK上昇、血中ミオグロビン上昇、尿中ミオグロビン上昇、横紋筋融解症	記載場所	重大な副作用
	頻度	頻度不明
2. ショック、アナフィラキシー、呼吸困難、そう痒、無顆粒球症、血小板減少、肝機能障害、黄疸	記載場所	重大な副作用
	頻度	0.1%未満

3. 痙攣、神経症状、ビタミンK欠乏症状、低プロトロンビン血症、出血傾向	記載場所	その他の副作用
	頻度	頻度不明
4. 過敏症、発熱、発疹、そう痒、顆粒球減少、好酸球増多、AST上昇、ALT上昇、Al-P上昇、LDH上昇、悪心、嘔吐、下痢	記載場所	その他の副作用
	頻度	5%未満
5. 浮腫、蕁麻疹、リンパ節腫脹、血小板減少、貧血、黄疸、食欲不振、腹痛、菌交代症、口内炎、カンジダ症、ビタミンB群欠乏症状、舌炎、神経炎、頭痛、筋肉痛、しびれ	記載場所	その他の副作用
	頻度	0.1%未満
6. 急性腎障害、間質性腎炎、重篤な腎障害	記載場所	使用上の注意
	頻度	頻度不明
7. 発疹、過敏症、ビタミンK欠乏症状、出血傾向、血管痛、血栓、静脈炎、過敏症状	記載場所	使用上の注意
	頻度	頻度不明

ペントシリン注射用1gの相互作用

1. 薬剤名等：メトトレキサート			
発現事象	排泄が遅延しメトトレキサートの毒性作用が増強	投与条件	-
理由・原因	腎尿細管分泌の阻害	指示	注意
2. 薬剤名等：抗凝血薬			
発現事象	血液凝固抑制作用を増強、出血傾向	投与条件	-
理由・原因	本剤の出血傾向や腸内細菌によるビタミンK産生抑制等により相加的に血液凝固抑制作用を増強	指示	注意
3. 薬剤名等：ベクロニウム			
発現事象	筋弛緩作用を延長	投与条件	-
理由・原因	-	指示	注意

ペントシリン注射用1gの配合変化

1. 薬剤名等：アミノグリコシド系抗生物質			
発現事象	アミノグリコシド系抗生物質の活性低下	投与条件	-
理由・原因	-	指示	禁止



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『 DIR 』

Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.